

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大里南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

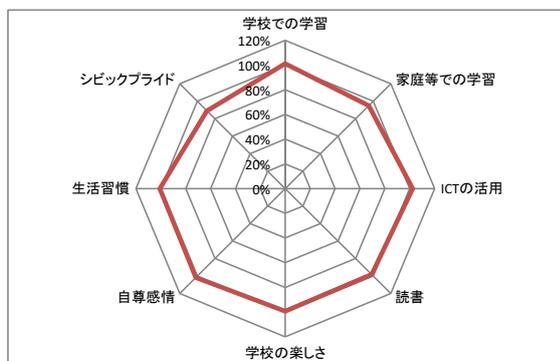
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容については、この観点においても全国平均を上回っているが、特に、「知識及び技能」(2)情報の扱い方に関する事項が全国平均を大きく上回っていた。全体的に無回答率は低いが、記述式の問題で無回答率が高くなっているのが課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかを問う問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを問う問題の正答率が低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回った。知識・技能を問う問題の正答率は、全国平均相当だったが、思考・判断・表現を問う問題の正答率は全国平均を下回った。問題形式では、記述式のもの全国平均を大きく下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図形の意味や性質について理解しているかを問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	()を用いた式や加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・話し合う活動や学んだことをほかの学習で生かすことが、自ら考え、自ら取り組む児童の育成において重要であるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「分かる。」「できる。」を実感できる授業を行っていくことが必要である。</p> <p>・シビックプライドの育成について、地域に関する問いに対して、肯定的に回答している児童は少なく、課題が見られた。学校通信やtetoruなどを活用して地域行事の周知や地域人材との交流などを計画的に取り組んでいく必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・算数科に関しては全国平均を下回ったが、国語科に関しては全国平均を上回った。 ・教科担任制を生かした専門性の高い授業づくりの推進を行ったり、補充学習や家庭学習の充実を図ったりする。 ・ICT機器の活用については、児童の発達段階を考えながらタブレット端末を活用した授業づくりや、ICT機器を有効に活用した活動等を積極的に取り入れていくことができるように今後も継続的に職員研修を行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には、懇談会や学校たより、学年たより等を通して、SNSの適正利用や家庭学習の大切さ等について啓発していく。また、毎日学年に応じた内容や分量の宿題を出すとともに、家庭学習（自主学習等）の時間や取り組み方を指導していく。また、他の児童の参考になるように、児童の自主学習ノートを掲示し、どのような自主学習・家庭学習を行いえばよいか学校全体に紹介している。 ・地域行事等の周知を図るとともに、地域行事へのクラブ活動参加や地域の人材をゲストティーチャーとして招くなどの取組を促進していく。 ・読書時間の確保のために、学校図書館司書職員や委員会活動と連携して図書の時間や休み時間の図書室利用促進などを更に取り組んでいく。
--